

# その他の活動報告

**5月**  
臨時議会  
肢体障害福祉協会総会（サンアビ）  
高退教筑後南支部総会（柳川）  
久留米地区企業内同和問題研修講師

**6月**  
大牟田大蛇山まつり役員会（商工会議所）  
障害者運動史完成報告会（たんぼぼ）  
6月議会  
ちくまちフェア  
よかよかネットワーク総会（よらんかん）

**7月**  
電動車いすサッカー映画「蹴る」上映会  
総務委員会視察（伊賀、京都、枚方、寝屋川）  
国民保護計画審議会・防災会議

**8月**  
佐賀県東部地区人権同和教育夏期講座講師  
障害者政治参加ネット全国大会（参議院会館）  
議会報告会（市内9カ所）  
全九州ろう社会人野球大会（延命球場）

よらんかんビアガーデン

**9月**  
総合防災訓練（イオン）  
自治労福岡障労連学習会（天神・自治労会館）  
9月議会（代表質問）／決算特別委員会  
にじいろCAP児童虐待防止学習会（文化会館）  
広範な国民連合福岡県総会（教育会館）  
ゆめ風基金防災講演会（サンアビ、恵愛園）

**10月**  
松嶋盛人みやま市長の差別資料配布へ抗議行動  
恵愛まつり／サンアビまつり  
社民党自治体議員団九州ブロック大会（熊本）  
障害者政治ネット九州ブロック大会（水保）

# これからの活動予定

**11月**  
萩尾祭（あけぼの苑）  
櫛野祭（有明ホーム）  
障害者支援事業所視察（熊本市）  
筑後六市議会議員研修会（クラブモーリア）

**12月**  
12月議会  
サンアビ餅つき大会  
築町クリスマスコンサート  
よらんかん餅つき大会

**熊本地震被災地障がい者をつなぐプロジェクト**  
熊本地震で被災された障がい者、関係者と繋がり、向き合い、大牟田市の障がい者の防災・減災の文化醸成を目的に市内の障がい関係者有志で立ち上げました。一年目は200名を超える方が現地を訪問しました。二年目は熊本から講師を招き、学びました。一定の役割を終えたと判断し、9月27日の防災講演会をもって解散しました。ご協力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

**お困りごとなどお気軽にご相談ください**  
市政に対するご意見、ご質問、ご相談などお気軽にご相談ください。  
すべてが解決するわけではありませんが、行政や相談機関と連携しながら対応していきます。

**【後援会入会のご案内】**  
本会は古庄和秀の活動を支援し、誰もが安心して暮らせる大牟田市になるよう取り組んでいます。ご賛同頂く方は入会下さい  
**年会費 1000円**  
連絡先：090-2517-4005  
FAX：0944-85-0028  
メール：furusho\_net@hotmail.com  
入会頂かなくてもニュースはお届けします。

# 【第2部：ふるしょう和秀の活動報告】

## 総務委員会視察報告



7月23日（火）～25日（木）の3日間、総務委員会の視察に行ってきました。

調査事項は、  
①（伊賀市）庁舎整備について・・・新築で、多目的トイレはそれぞれ機能が異なっていました。



②（京都市）京都市新庁舎整備について・・・業務を続けながらの改修はかなりハードルが高かったです。また、築80年を経過した建物は設計図にはない配管や電線等があり、一つひとつ確認していく作業も出てきたとのこと。本館を改修し使用し続けるならば、想定外の作業も想定する必要があります。

③（枚方市）障がい者雇用について・・・視覚、聴覚等、大牟田市よりも多様な障がい者が働かれ、加齢により重度化しても働き続けられるよう障害特性休暇が創設されていました。

④（寝屋川市）シティプロモーションについて・・・客観的指標に基づく施策を進められていました。

# 松嶋盛人みやま市長の差別資料配布に抗議



10月3日（木）、「障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク」の事務局3名で松嶋みやま市長が8月26日の管理職研修に差別書類を配布したことに抗議をしました。  
**【松嶋市長が配布した資料の主な内容】**

- ・よいことを積み重ねた家では、その恩恵が子孫におよび、よくないことを積み重ねた家には、その災いが子孫にまで及ぶ。
- ・約150年前の米国の家系調査のデータを示し、怠惰な無頼漢の子孫は精神や肉体を病む者や犯罪者が多い

### 【政治ネットからの抗議・要請の内容】

- ① 今回の差別資料の配布に強く抗議する
- ② 優生思想を学ぶには専門家よりも差別を受けてきた障害者の体験から学んでほしい。
- ③ なぜこのような文書を作り、研修で配布したかを知りたい。  
私たちは謝罪を求めたのではなく、市長として、なぜこの資料を管理職研修に配布したのかを確認するために訪問したのですが、松嶋市長本人のお考えを言われなかったのは残念でした。  
政争の具とはせず、首長として、なぜこのような資料を作り、管理職研修に配布したかを究明され、人権が尊重されるみやま市になることを願います。

# しょうがいしゃ じりつ せいじさんか どうきょうたいかい 障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク東京大会

8月25日(日)～27日(火)の3日間、東京大会を開催し、参加してきました。
25日(日) 14:00～17:00 総会、政策的意見交換会(星陵会館4階 会議室4AB)
26日(月) 10:00～11:30 厚生労働省との意見交換(参議院会館101会議室)
13:30～15:30 障害者雇用水増し問題についての院内集会(Ⅱ)
27日(火) 10:00～11:30 葛飾区視察(災害時の障害者支援、男女平等推進センター)
昼食後、次期大会に向けた事務局会議



**1. 総会、政策的意見交換会**  
総会では古庄が事務局長に就任した。意見交換会では主に2点を協議した。

**①水俣市役所仮庁舎のバリアフリー**  
水俣市役所仮庁舎の杉迫一樹議員は4月の統一選挙で初当選された。議場はエレベータのある別の建物にあるが、議会事務局や議員控室、全員協議会などで用いる会議室は仮庁舎の2階。職員が車いすごと抱え上げて階段を上り下りしている。大牟田市では車いすユーザ議員の当選後エレベータが設置されたことや、ある議会では階段の上り下りを手伝ってもらっていた車いすユーザ議員が階段から落ち障害が重度化し勇退された事例を共有した。

10月25日には現地で意見交換してくる。  
**②議員活動におけるコミュニケーション保障**  
聴覚障害当事者議員の視察も含めた議員活動では手話通訳、要約筆記等のコミュニケーションは保障されるが、研修等は全て自己負担で1日7万円ほど支払っている現状を共有した。昨年7月に全国議長会に障害種別ごとの合理的配慮の必要性を提言したが、更なる共有化と提言の必要性を痛感した。

**2. 厚生労働省との意見交換**  
以下の5点について、緊急かつ重要な課題と捉え、事務局として参考資料含め文書化し、事前に厚生労働省、内閣府に提出していたものの、満足のいく回答ではなかった。その回答のほとんどが根拠がなく、詳しく確認していく必要性を痛感した。入院時における介護保障、65歳になった途端に介護保険が優先される65歳問題、災害時における避難所での課題等、引き続き取り組んでいくべき課題である。国の担当者にも真摯に向き合って頂くよう工夫する必要があると痛感した。

1. 障害者就労継続支援A型・非雇用型の実態調査の必要性について
2. 入院時における重度訪問介護の利用について
3. 高額障害福祉サービス等給付費等の支給事務の調整について
4. 補装具(特に靴型装具)に関して義肢装具士でない靴製作者が提供している現実について
5. 福祉避難所の諸課題について



ひるやす しんせんぐみ  
昼休みにれいわ新撰組の船後議員、木村議員をひょうけいほうもん こんごれんけい表敬訪問し、今後連携、きょうりよく協力していくことをかくにん確認してきました。  
←船後議員 木村議員→



**3. 障害者雇用水増し問題についての院内集会**  
担当者から発覚後から今日までの経過と今後の対応を7点について報告を受けた後、私が、働くための介護保障含め、現状での政策提言をした。重度障害の国会議員の誕生で、障害者の働くなどの経済活動における介護費用の公費負担については、以下のように整理した。

- (1) 基本的には必要なこと
- (2) 制度創設のための国民理解の醸成  
介護支援を受けながら働くことによる当事者の自己実現と経済貢献度の向上、介助者の雇用
- (3) 制度創設に向けて解決すべき課題
  - ① すでに雇用主が負担している事業所の介助方法と新たな制度の整合性
  - ② 公費負担の範囲(通勤、勤務時間、営業・研修等の外出、宿泊を伴う出張など)
  - ③ 費用負担の割合(公費、雇用主、雇用者、雇用調整助成金など)
  - ④ 他の制度創設とのバランス(通学、修学などを含め)

※この大会へは介助者の旅費含め政務活動費を使って参加しました。(総額 140,760円)  
※介助者の日当は古庄の報酬から支払いました



**4. 葛飾区視察(災害時の障害者支援)**  
以下の事前質問項目に基づき、意見交換した。  
**①災害指定避難所への障害者への避難経路支援**  
対策はどのように行っているのか?  
**②福祉避難所はどのくらいあるのか?**  
福祉避難所は、障害区別ごとに区別されてプライバシーが守られるようにしているのか?  
**③災害時要配慮者対策の現状と課題(要配慮者名簿と個別支援計画作成の進捗状況含めて)**  
**④地域防災マニュアルの策定**  
**⑤震災復興まちづくり訓練、震災復興マニュアルの概要、成果と課題**  
**⑥災害時における特別相談に関する協定**  
福祉避難所は60カ所以上あり、毎年1カ所ずつ事業所と地域住民と区とで合同の防災訓練が行われていた。訓練を繰り返すことで、災害時の動きに慣れることと要援護者と地域住民、福祉避難所スタッフが顔なじみになることを目的とされていた。大牟田市でも必要な取り組みである。また、相次ぐ災害を受け、自治会の役員さんたちが区の職員のアドバイスを受けながら2年かけて策定された自治会向け「地域防災マニュアル」の説明を受け、9月の代表質問で紹介した。

